



進まなん

学校
だ
よ
り

新発田市立七葉中学校

新発田市上館乙84番 2

電話 0254-22-3524

令和3年5月28日 第26号

5月全校朝会 校長講話

「10cmの思いやり」

校長 野澤 一吉

私たちの学校には、生徒会が中心に定めた、「思いやり、協力、感謝」という行動目標があります。今日は、みんなで「思いやり」について考えます。

これから、代表の生徒から、清掃の場面を紹介してもらいます。

Aさん「さあ、今日も一生懸命に清掃するぞ。私のすることは、1組の教室をきれいにするぞ。 (一生懸命に清掃を行い) よし、きれいになったぞ。今日も1日が、気持ちよく終わることができたぞ。」

Bさん「さあ、今日も一生懸命に清掃しよう。私のする場所は、2組の教室だ。(一生懸命に清掃を行い) よし、きれいになったぞ。あれ、1組の教室の前にゴミがあるぞ。誰も掃除はしていないなあ。隣もするか。よし、きれいになった。何か気分がいいなあ。今日も1日が、気持ちよく終わることができた。」

2人から、毎日一生懸命に清掃している様子を紹介してくれました。みなさんも、日頃の自分の清掃を思い出したと思います。

実は、紹介した内容は、私の経験を基にしたものです。それは、今年の1月でした。雪がたくさん降り、毎日のように雪かきをしなければなりません。ある日、自宅の前の雪かきをやっと終えた時、ふと隣の家の前に雪がまだたくさん積もっていることに気付きました。私は、隣の雪を除雪するかどうか悩みました。

雪かきは非常に疲れます。自宅前を除雪するだけでも長い時間がかかります。隣の場所を除雪する気持ちがなかなか出てきませんでした。さらに、隣を除雪するという勇気が出てきませんでした。私には、境界線を越えてはいけないという「ルール」がありました。

ところがある日、自宅前の道路を、小さな子どもが親御さんと一緒に除雪をしていました。その子は、ほとんど、私の家の前に近い道路を一生懸命に除雪していました。私は、その姿を見て、自分を優先する行為と境界線を越えてはいけないという「ルール」の浅はかさを感じました。私は、その小さな子から学びました。その日から、少しではありますが、隣の家も除雪するようになりました。当然疲れます。

私は、この経験から、相手のことを思い一考一気遣うこと、つまり「思いやり」には力が必要であることに気付きました。自分と相手との見えない線を越える、利益を超えて自分から実践するには、力が必要であることが分かりました。

「思いやり」は、自分の枠を越えて、新しい自分と出会える素晴らしいことであると考えます。もしよかったら、清掃の時間に、自分の線を越えて清掃をしてみませんか。少しその線を越える「10cmの思いやり」を実践してみませんか。自分の枠を越え、新しい自分と出会うために実践してみませんか。

仕事には、ある視点から見ると3つあると考えます。自分の仕事、相手の仕事、誰でもない仕事。心安まる仲間になるには、この3つを理解することから始まると考えます。